

第2回ラムサールシンポジウム新潟

第2回ラムサールシンポジウム新潟が、2001年11月22～24日に新潟市で開催された。本会からも藤巻、神谷などが参加した。シンポジウムで採択された新潟ステートメントをここに掲載するとともに、参加した神谷さんに感想文を書いていただいた。シンポジウムの内容については、神谷要さんの文を参照していただきたい。

新潟ステートメント

(2001年11月24日)

ラムサールシンポジウム新潟2001は、1996年3月に日本で第10番目のラムサール条約登録湿地となった新潟市佐潟の登録5周年を祝し、1996年に開催された第1回ラムサールシンポジウム新潟において、行政とNGO、地域住民、研究者等の協同による活動の連携の重要性が強く認識されたことを踏まえて、「湿地の賢明な利用」、東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワークの活動、日本の「重要湿地500」をはじめとする東アジアの湿地保全をより一層進めることを目的として、2001年11月22日から24日、7ヶ国約180名の参加者を得て、新潟市において開催された。

シンポジウムは、

- 1 近年の東アジア地域におけるガンカモ類個体群の減少に強い懸念を表し、
- 2 すべての関係主体が東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワークの活動に十分な参画と支援を行うことを奨励し、
- 3 日本を含むアジアでは、特に水田が湿地として重要な役割を果たしていることを評価し、
- 4 生息地におけるガンカモ類及び農業活動との共存の重要性を確認し、
- 5 ガンカモ類との賢明なつきあい方として、餌付けに頼らない水田などの有効利用を含めた採餌環境の創造が重要であることを確認し、
- 6 感染症の蔓延等による個体群消滅の危機を回避するために、積極的な生息地の保全や復元による分散化の取組みが今後高い優先的活動としてみなされるべきであることを認識し、
- 7 NGO、農林漁業者を含む地域住民、行政等のさまざまなネットワーク化が進展しており、「市民の科学」の確立や、各関係者間の真の連携の可能性が示されたことを歓迎し、

- 8 さらに、佐潟単独ではなく、この地域の湖沼群をグループとしてとらえることの重要性および将来にわたってそれらの保全と賢明な利用を考えていく必要性を認識した。

参加しての感想

神谷要（米子水鳥公園）

1. この会議には全国の非常に多くの湿地の保護に関係する180名の方が参加されていました。以前から私の会いたかった多くの方にお会いでき、各地の情報交換ができたことが一番の収穫でした。普段メーリングリスト上だけの付き合いであった人たちに、一目お会いできたので、今後はメーリングリストへ投稿するのが楽しみです。また、新潟の各湿地の担当者にお会いできたこと。新潟は実に人材が豊富ですね。福島潟の小松さんのところだけは、無理やり会議の翌日に押しかけてしまいましたが、「私の会いたい人リスト」の半分ぐらい処理できた気分でした。

2. 自分の地域の活動結果を報告できるいい機会をもらいました。特にコハクチョウの渡りルートに関する内容では、海外の研究者に、日本のハクチョウがどの湿地を通過しているかアピールできたことは、非常に良かったと思います。他の地域の発表も面白く、今後の活動の参考とやる気の源になりました。

3. 各セッションのテーマの分け方が良かったと思います。「ガンカモネットワーク」・「湿地の懸命な利用と保全活動」・「ハクチョウ」・「活動の連帯と情報の共有化」の4つのセッションがあり、それぞれよくまとまっていたと思います。

特に、渋谷/厚岸湖さんの「ハクチョウの給餌問題」やエゲフニー・シロエチコフスキーJr氏の「アジアのガンの個体数は、ヨーロッパの十分の一、アメリカの二十分の一である」という発表は、非常にいいものだったと思いました。

4. 各地のサンクチュアリセンター・観察館の職員同士の交流ができたこと。これは個人的な会話ですが、各地ごとの事情の違いや苦労話を共有できたのは、非常に良かったです。また、新潟の各施設の設計や設備、インタープリテーションのやり方を見ることができました。特に、福島潟の小松さんの解説技術は私の目指すところを実現されている感がありました。

5. 最後に

この会議を企画された新潟市役所の寺田様、準備に忙しく飛び回られていた環境省の中嶋様、ガンカモネットワークフライオフィサーの宮林様、議長の呉地様、その他この会議の開催に尽力されたかたがたに敬意の念を表します。